25年後のリフォーム見据え

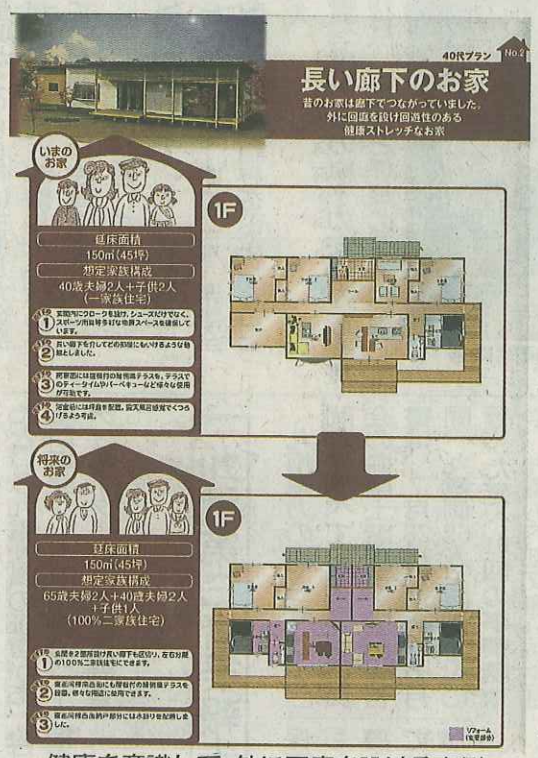
変化する住まい提案

「可変性住宅プラン集」作成

県内12工務店

介護など間取り変更に対応

バリアフリーを研究する佐賀県内の工務店12社でつくる「よかもんを残す会」（会長＝佐藤清春・春建設社長）が、新築時と25年後のリフォームプランを同時に示す「可変性住宅プラン集」を作成した。子どもの巣立ちや、介護が必要となった時に最小限の費用で改修できる間取りを提案している。



健康を意識して、外に回廊を設ける事例

各社がリフォームにあたる中、車いすが通らない廊下、寝室から遠い風呂などに悩む家庭が多いことに着目。こうした意見を各社の経営者と設計担当者が出し合い、1年3カ月かけてプランをまとめた。

プラン集には30代、40代、60代の年齢に合わせて掲載。「介護なお家（うち）」と題したプランは風呂、脱衣室、トイレ、寝室を一直線に配置した。将来的に寝室の押し入れを改造し、介護リフトを取り付けられる。車いすが通れるような広めの廊下、間仕切りで半分を賃貸住宅に使えるよう多目的ホールを真ん中に設けるなど工夫を凝らす。

同会は1999年に発足、全員がホームヘルパー2級を取得し、専門家を交えた学習会を定期的に開催している。プラン集を担当した江口建設（佐賀市）の江口宏彰専務は、「数十年で家族構成は変わり、介護対応、2世代同居、賃貸などそれぞれ出てくるニーズは違う。変化に対応しやすい間取りを考える材料を提供できれば」と話す。

プラン集は、佐賀市新中町にある山口新建木材センターの展示場「リファイン佐賀やさしいおうちの体験館」で見ることができる。問い合わせは事務局の山口新建木材センター、電話0952(29)3333。

（大田浩司）